

第7章 歯科口腔保健計画

施策の方向性 1 生涯を通じた歯科疾患の予防及び口腔機能の発達と維持向上の推進

(1) 乳幼児期

乳幼児期は、乳歯が生え、2歳半～3歳頃ですべての乳歯が生えそろい、かみ合わせが安定します。

乳幼児期から正しい食生活や歯みがきなどの習慣が身につくよう、保護者への働きかけが大切となります。

◆ 現 状

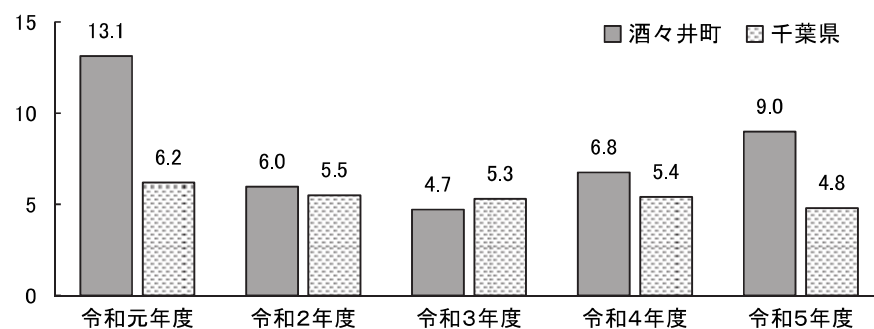
〈統計データ〉

1歳6か月児における1日3回以上間食の習慣がある割合は、令和3年度にかけては減少でしたが、令和4年度以降増加傾向にあり、県内の平均値を上回っています。

3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある児の割合は令和2年度以降横這い傾向ですが、県内の平均値を上回る推移となっています。

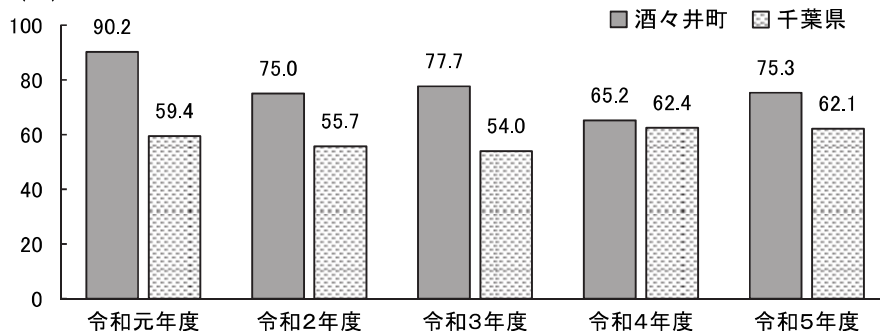
3歳児のむし歯保有率は令和元年度から見ると減少傾向にありますが、県内の平均値を上回っています。

1歳6か月児における1日3回以上間食の習慣がある割合の推移
(%)

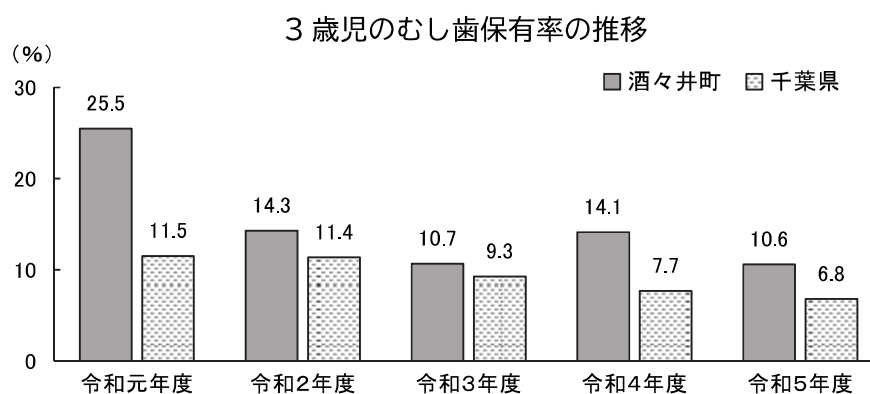


資料: 酒々井町保健センター、市町村歯科健康診査(検診)実績報告書

3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある児の割合の推移
(%)



資料: 酒々井町保健センター、市町村歯科健康診査(検診)実績報告書



資料：酒々井町保健センター、市町村歯科健康診査(検診)実績報告書

❖ 課題と方向性

① 乳歯のむし歯予防

指標となっている1歳6か月児で間食（おやつ）を1日3回以上飲食する習慣を持つ児の割合、毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある児の割合、いずれも減少しています。一方で、3歳児についてはむし歯のない児の割合、毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある児の割合は改善傾向にあります。

乳幼児期は、口腔機能の基盤が形成される時期です。正しい食生活や歯みがきなどの習慣をつけ、乳歯のむし歯予防が必要です。

❖ 行政の取組み

- ① 乳歯のむし歯と永久歯のむし歯には強い関連が認められるため、家庭での歯みがきや正しい食生活などの習慣について、普及啓発と歯科保健指導を図ります。

❖ 数値目標

指標		現状値 (令和5年度)	目標値
3歳児におけるむし歯のない児の割合		89.4%	90%以上
1歳6か月児で間食（おやつ）を1日3回以上飲食する習慣を持つ児の割合		9.0%	5%以下
毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある児の割合	1歳6か月児	88.8%	100%
	3歳児	98.8%	100%

◆ 主な事業

事業名	事業内容	担当課
歯科健康相談	随時（祝日、がん検診の日を除く）保健センターで各種相談を行います。多くの町民が利用できるよう幼児健康診査参加者、健康づくりカレンダーや広報等で周知を図ります。	健康福祉課
乳児相談	10 か月児に、歯科衛生士によるブラッシング指導と歯ブラシの配布を行います。	健康福祉課
1 歳 6 か月児健康診査	内科・歯科健診、身体計測、育児・栄養相談や歯科衛生士による染め出し、ブラッシング指導を行います。	健康福祉課 三師会
2 歳児歯科健康診査	歯科健診、身体計測、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布などを行います。フッ化物塗布の有効性を町民に周知し、受診率向上に努めます。	健康福祉課 三師会
3 歳児健康診査	内科・歯科健診、身体計測、尿検査、育児・栄養相談や歯科衛生士によるブラッシング指導を行います。また、希望者に対しフッ化物歯面塗布を実施します。	健康福祉課 三師会
あいあい子育て講話	保健師・栄養士・歯科衛生士、保育士による子育て講話等を行います。	健康福祉課 こども課
なかよしはみがき指導	保育園・幼稚園の年長児を対象にむし歯について話とブラッシング指導を行います。	健康福祉課 こども課 町内保育園・幼稚園等
保育園児歯科健康診査	年に 1 回歯科健診を行います。	健康福祉課 こども課 保育園

(2) 学童・思春期

6歳頃から乳歯から永久歯への生え変わりが始まり、12～14歳頃に生え変わりはほぼ完成します。生えたばかりの永久歯はむし歯になりやすいため、正しい口腔ケアや食習慣を身につけることが大切です。

思春期は、歯肉炎が増えてくる時期でもあり、歯科口腔保健に関する知識の普及啓発が必要となります。

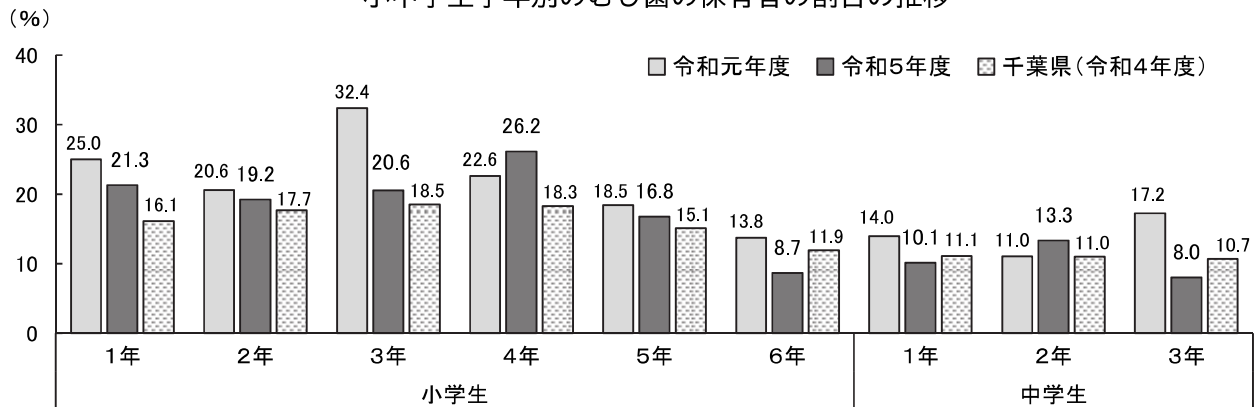
◇ 現状

〈統計データ〉

むし歯のある割合は、小学4年生及び中学2年生を除いて減少しています。

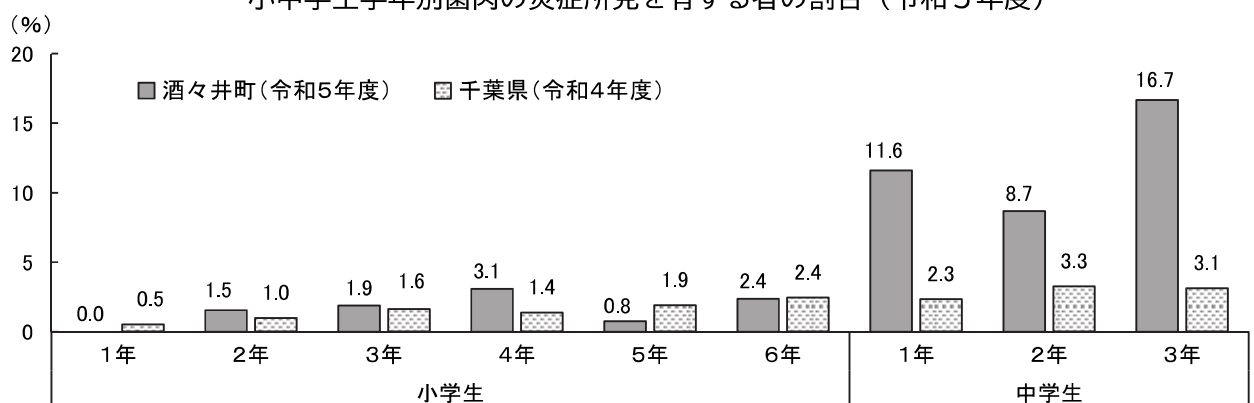
歯肉の炎症所見を有する割合は、小学生では2年、3年、4年で県の平均値を上回り、中学生では全学年で県の平均値を大きく上回ります。

小中学生学年別のむし歯の保有者の割合の推移



資料：酒々井町保健センター、千葉県児童生徒定期健康診断結果

小中学生学年別歯肉の炎症所見を有する者の割合（令和5年度）

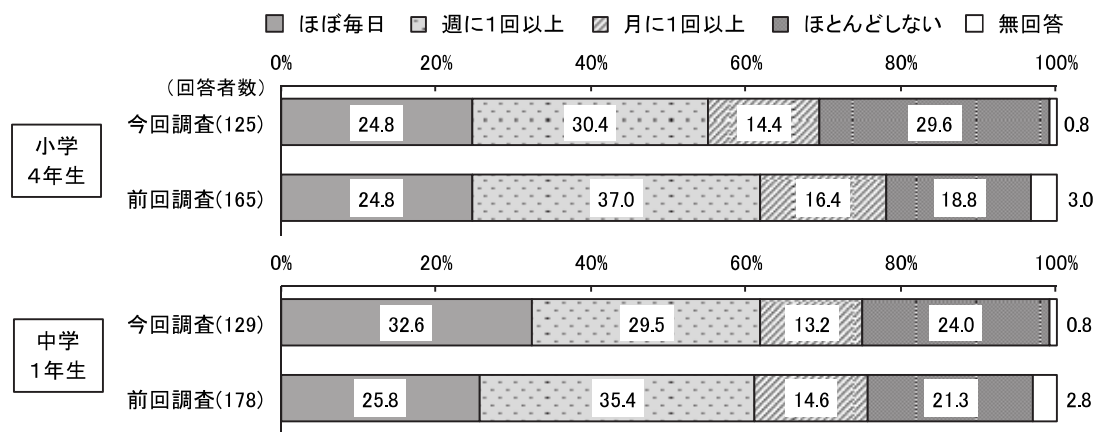


資料：酒々井町保健センター、千葉県児童生徒定期健康診断結果

〈小中学生アンケート調査〉

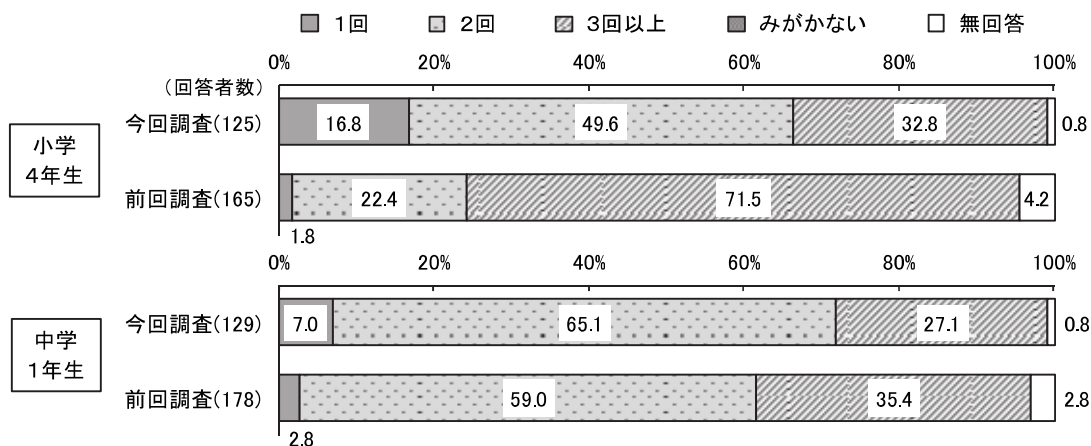
週1回以上、自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣のある割合は、小学4年生55.2%、中学1年生62.1%であり、小学4年生については前回調査61.8%を下回ります。

鏡を使って歯や歯ぐきの様子を観察すること



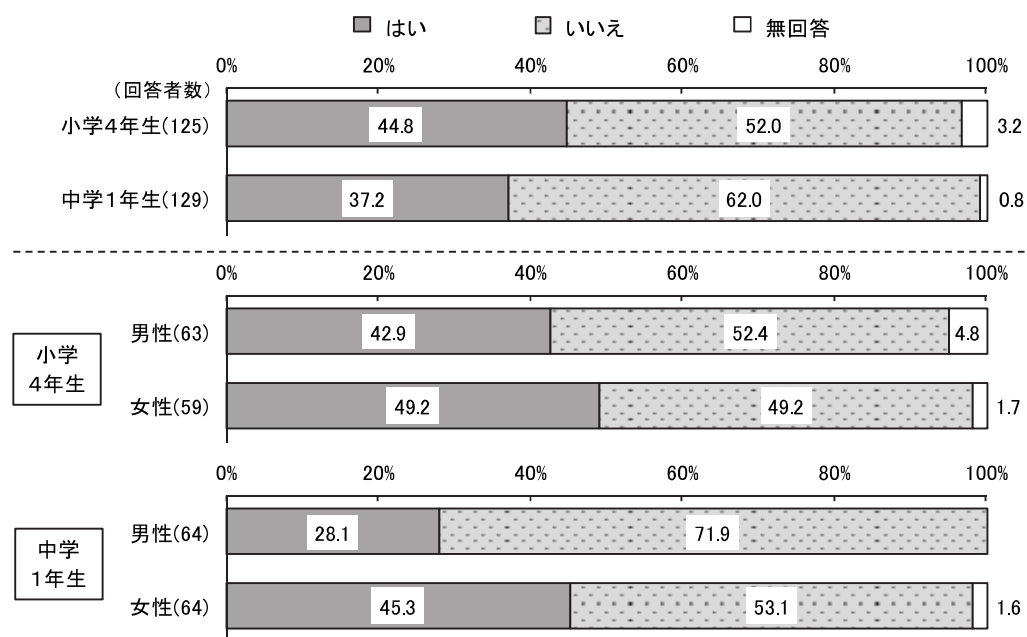
1日に歯をみがく回数は、小中学生いずれも2回が最も多く、小学4年生49.6%、中学1年生65.1%となっています。前回調査と比較すると、小学4年生・中学1年生ともに「3回以上」の割合が下がっている原因は、コロナ禍において給食後の歯みがきタイムが中止となったため「2回」の割合が増加したと考えられます。

1日何回歯をみがくか



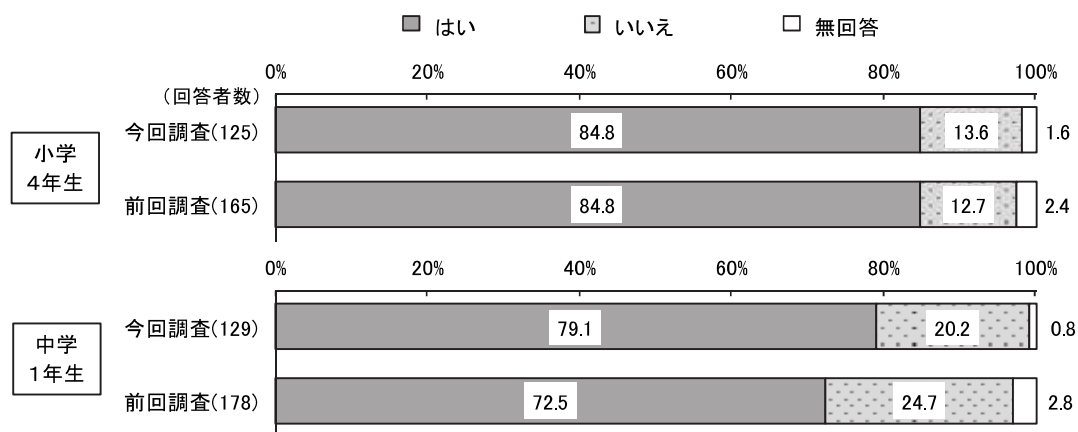
歯ブラシ以外で歯の間をきれいにする器具（デンタルフロスなど）の使用は、小学4年生44.8%、中学1年生37.2%となっており、いずれも女性が男性を上回ります。

歯ブラシ以外の歯の間をきれいにする器具の使用



よく噛んで食べることの意識は小学生4年生84.8%、中学1年生79.1%であり、前回調査では小学生は同じ84.8%、中学生は72.5%と、中学生は前回調査を上回ります。

よく噛んで食べるよう気をつけているか



❖ 課題と方向性

①高まりつつある歯科保健への関心

指標となっている週1回以上自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣のある割合は、小学4年生では前回調査を下回っています。子どもの頃から効率的な歯科保健教育やセルフケアの知識を普及していくことが必要です。

②歯肉炎、不正咬合などへの適切な対応

歯肉炎、不正咬合などへの適切な対応を図るためには、若い頃からの適切な対応が必要となります。歯間部清掃用具を用いたセルフケアは学童期で4割程度となっています。

❖ 行政の取組み

- ①歯や歯肉の自己観察を育てるため、家庭や学校と連携して情報提供を図るとともに、学校における歯科口腔保健の取組みを推進します。
- ② 歯間部清掃用具を使用するセルフケアの実践に向けて、正しい知識の普及啓発と適切な受診を促進します。

❖ 数値目標

指標		現状値 (令和5年度)	目標値
12歳児における1人平均むし歯数		0.53本	0.5本以下
歯肉の炎症所見を有する（G）生徒の割合	中学生	12.4%	15%以下
よく噛んで食べることを意識している児童・生徒の割合	小学4年生	84.8%	90%以上
	中学1年生	79.1%	90%以上
週1回以上自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣のある児童・生徒の割合	小学4年生	55.2%	70%以上
	中学1年生	62.1%	70%以上

◆ 主な事業

事業名	事業内容	担当課
かみかみメニューの実施	よく噛む献立を作成し、給食便りで保護者に周知します。小学校においては校内放送で、メニューの説明と特によく噛んで食べるように放送します。	こども課 学校教育課 学校給食センター
学校歯科検康診査	児童・生徒に対して年に1回歯科検診を行います。	学校教育課 三師会 健康福祉課
歯科管理検診	春の歯科検診でC O, G Oの児童生徒に対し歯科検診を行います。検診後改善が認められない児童に対しブラッシング指導を実施します。	学校教育課 三師会 健康福祉課
学校ブラッシング指導	各クラス歯科衛生士による講話、染め出し、ブラッシング指導を実施します。	学校教育課 健康福祉課
特別支援学級ブラッシング指導	歯科衛生士による講話、染め出し、個別のブラッシング指導を実施します。	学校教育課 健康福祉課
健歯の表彰	むし歯や歯周病のない健康な口腔をもつ小学6年生、中学3年生の代表者各1名を表彰します。	学校教育課
歯みがきタイム	給食後、小学校で歯みがきを行う時間を設けています。	学校教育課



コラム

赤ちゃんが生まれる前に歯科検診を受けましょう！

酒々井町では、妊婦とその配偶者を対象に、「ママ・パパ歯科検診」を実施しています。

妊娠中はつわりで歯磨きが難しくなり、口の中に歯垢(細菌の塊)が多くなりやすいです。むし歯や歯周病になりやすいだけでなく、歯周病菌が早産や低体重児出産の原因となることがあります。また、ママやパパのむし歯が多いと、むし歯菌が移ることで子どももむし歯が多くなる傾向があります。

無理のないタイミングで歯科検診を受診し、歯や口の健康を保ちましょう。



(3) 成人・高齢期

歯の喪失原因となる歯周病が年齢とともに増加する時期です。歯周病の発症や悪化には喫煙や口腔の衛生管理の状況が大きく影響することから、正しい口腔ケアの実践や定期的な歯科検診が大切となります。

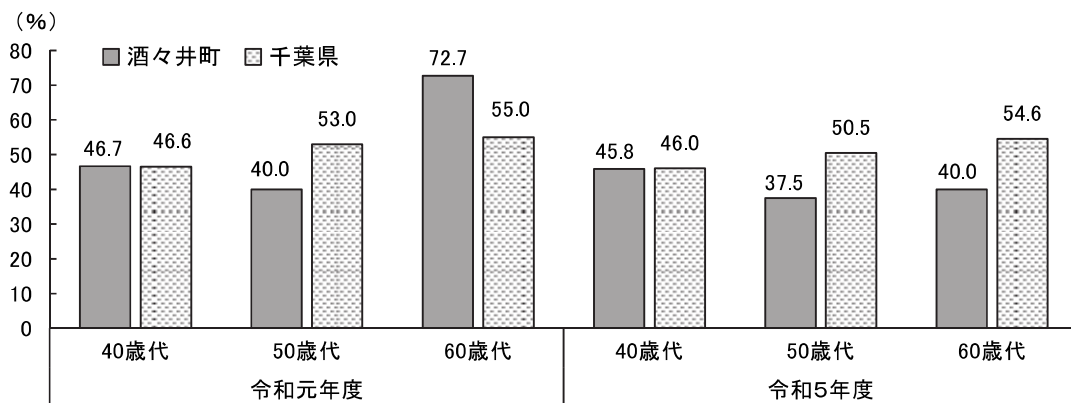
高齢期は、歯周病の進行や、歯の喪失が急増します。口腔機能の維持・向上に重点をおいた、正しい口腔ケア習慣・食習慣を身につけることが大切となります。

◆ 現状

〈統計データ〉

成人歯科検診において進行した歯周病を有する人の割合は、各年度により値が大幅に異なります。酒々井町は人口及び受診者数が少ないことから統計結果によっては、傾向を分析・評価することが難しいです。

成人歯科検診において進行した歯周病の有所見率の推移

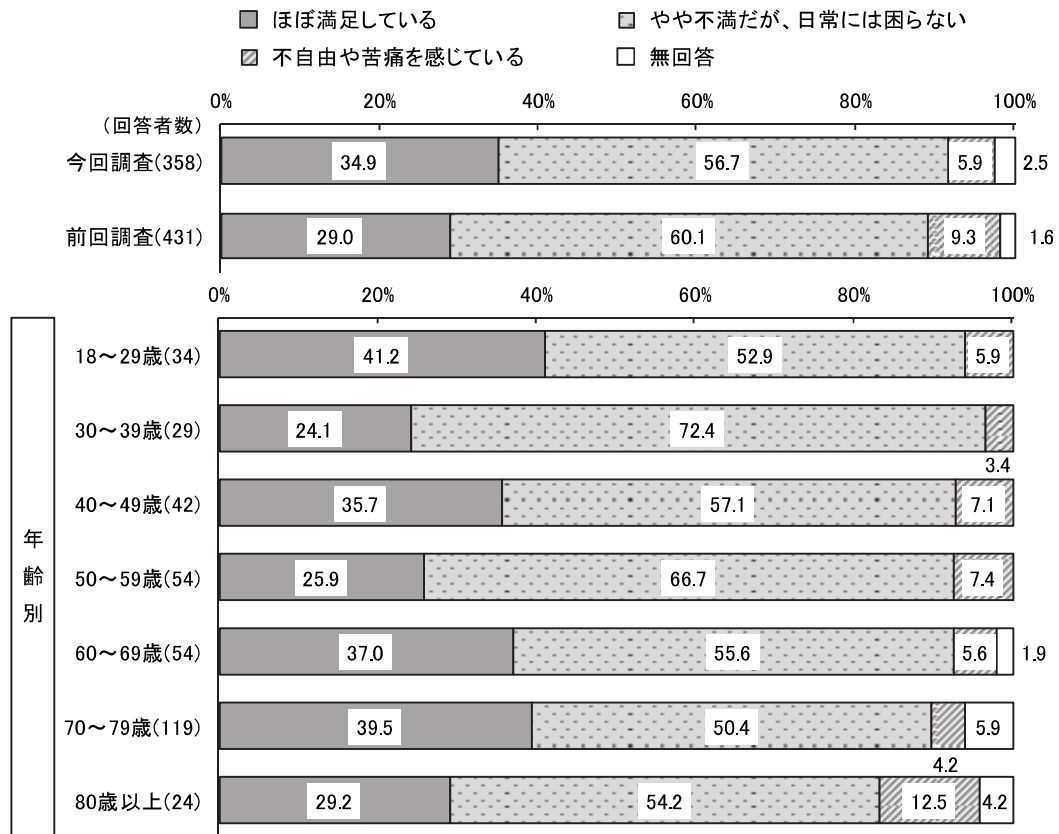


資料：酒々井町保健センター、市町村歯科健康診査(検診)実績報告書

〈町民アンケート調査〉

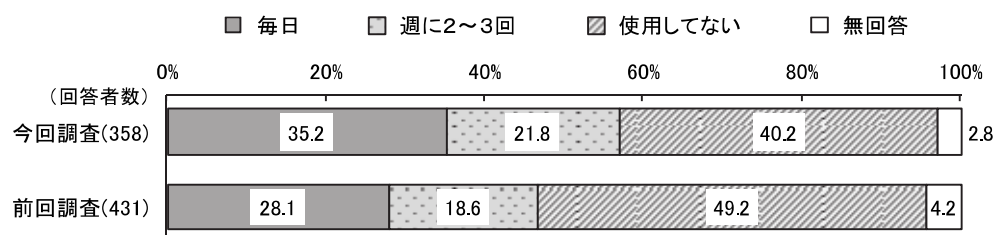
歯や口の現状に「ほぼ満足している」「やや不満だが日常には困らない」を合わせた『満足・困らない』は91.6%と前回調査89.1%をやや上回ります。「不自由や苦痛を感じている」は80歳以上で12.5%となっています。

歯や口の現状について



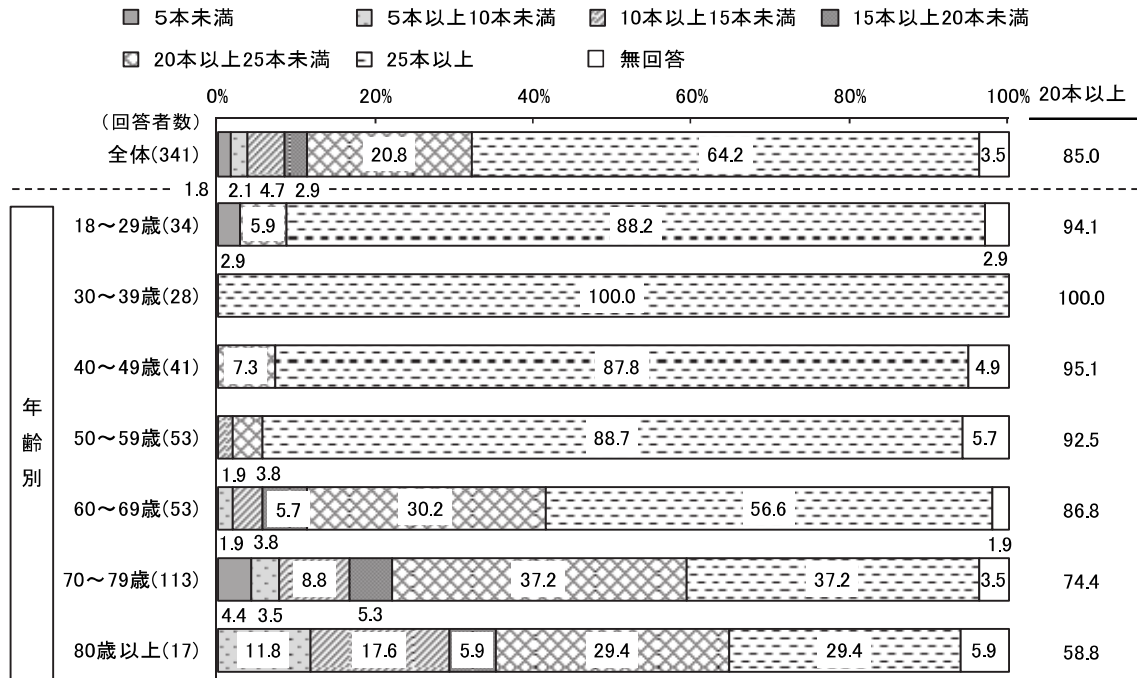
歯みがきで、デンタルフロスや歯間ブラシなど、歯ブラシ以外の清掃道具を「毎日」「週に2～3回」の使用は57.0%と、前回調査46.7%を上回ります。

デンタルフロスや歯間ブラシなど歯ブラシ以外の清掃道具の使用



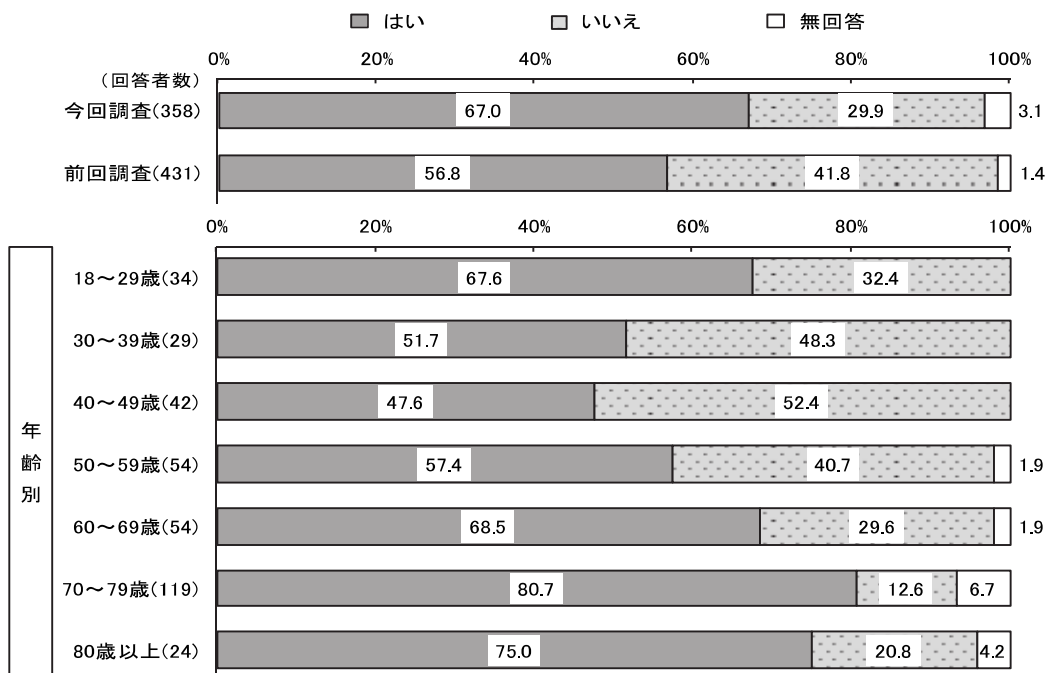
歯の本数は「25本以上」が64.2%と6割を超え、「20本以上25本未満」20.8%と合わせると、20本以上が8割を超えています。国は、80歳で20本以上の歯を持つ8020運動に取り組んでいます。本町の80歳以上で20本以上は58.8%と6割近くとなります。なお、国の令和4年歯科疾患実態調査の平均は、51.6%となっています。

現在の歯の本数

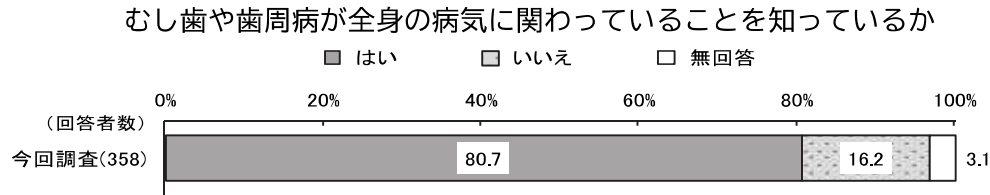


よく噛んで食べることの意識は67.0%と前回調査56.8%を上回ります。なかでも70歳代では8割、80歳以上では7割半ばと高い割合となっています。

よく噛んで食べることを意識しているか



むし歯や歯周病が全身の病気に関わることを「知っている」は80.7%となっています。



課題と方向性

①20 本以上の歯を持つ人は8割

なんでも不自由なく食べるためには、自分の歯を20本以上保つことが必要と言われています。指標となっている、80～84歳で自分の歯を20本以上有する人は、80歳以上で58.8%と目標を達成しています。また、歯や口の現状に、約9割の人が満足・困らないとしています。

引き続き8020（80歳になっても自分の歯を20本以上保つ）の実現を目指し、生涯を通じた歯と口腔の健康の維持に向けた取組みが必要となります。

②7割の人がよく噛んで食べる意識を持つ

よく噛んで食べる意識が高まっています。指標となっている、よく噛んで食べることを意識している人の割合は目標を達成しています。

高齢期の口腔機能の衰え（オーラルフレイル）に備え、成人期からの口腔機能の維持・向上を図る早めの対策が必要となっています。

③8割の人が全身の健康と口腔の健康づくりとの関連を知っている

むし歯や歯周病が全身の病気と関連があることを、8割の人が知っているとしています。

行政の取組み

- ① 歯と口の健康づくりの大切さについて普及啓発を図るとともに、歯や歯肉の観察、歯間部清掃用具の使用などセルフケアの実践を促進します。
- ② 8020の実現に努めるとともに、80歳になっても肉類など良質なタンパク質を摂取できる歯を保てるよう「8029（ハチマル・ニク）運動※」の普及啓発を図ります。
- ③ ひとくち30回以上噛むことを目標とした「噛ミング30」を推進するとともに、高齢期に向けてオーラルフレイル対策に必要な口腔機能の維持・向上の普及啓発を図ります。
- ④ 歯周病は誤嚥性肺炎、動脈硬化（脳梗塞・狭心症・心筋梗塞など）、糖尿病など全身疾患のリスクになります。特に糖尿病は、強い因果関係が確認されていることから、全身の健康と歯の口腔の健康づくりの関連性について普及啓発を図ります。

※8029（ハチマル・ニク）運動：「80歳になっても肉をはじめとした良質なたんぱく質を摂取できる歯を保つことを推奨し、介護を必要としない元気な高齢者を増やしていこう」という千葉県発の運動です。

◆数値目標

指標		現状値 (令和5年度)	目標値
80～84歳で自分の歯を20本以上有する人の割合※		41.9%	50%以上
定期的に歯科検診を受けている人の割合		50.8%	60%以上
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合		53.4%	60%以上
成人歯科検診受診率		0.8%	増加へ
成人歯科検診において進行した歯周病を有する人の割合	40歳代	45.8%	20%以下
	50歳代	37.5%	30%以下
	60歳代	40.0%	40%以下
歯間部清掃器具を使用している人の割合		57.0%	60%以上
よく噛んで食べることを意識している人の割合		67.0%	70%以上
8020運動を知っている人の割合		51.4%	60%以上
口腔と全身との関わりについて知っている人の割合		80.7%	85%以上

※令和4年度酒々井町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

◆主な事業

事業名	事業内容	担当課
ママ・パパ歯科検診	妊婦とその配偶者に、妊娠中からの口腔ケアの大切さや生まれてくる赤ちゃんの口の健康づくりのため、むし歯・歯周病検診を一人一回無料で行います。	健康福祉課 三師会
成人歯科検診	40歳以上の方を対象に、町内の契約歯科医療機関で歯科検診を行います。受診率が上がるよう、ちらし、広報、回覧、SNS等で周知を図ります。	健康福祉課 三師会
歯と口腔の健康教育	各種教室や出前健康講座でむし歯、歯周病予防、口腔機能の維持等、歯と口腔の健康づくりの重要性について広く周知し具体的な方法について指導します。	健康福祉課
お口の健康検査	65歳以上の方に対し、お口の機能検査を行います。	健康福祉課 三師会
出前健康講座	各地域に出向き、歯と口の健康づくりの教室を行います。	健康福祉課
酒々井町高齢者のよい歯のコンクール	80歳以上で20本以上の歯を有し、歯の健康が優れている方を表彰します。	健康福祉課 三師会

施策の方向性2 歯科口腔保健を推進するための環境整備

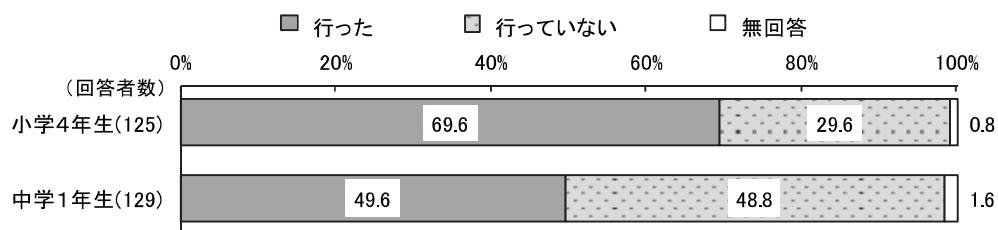
町民一人ひとりが生涯を通じて自らの口腔ケアに取り組むとともに、かかりつけ歯科医で定期的に歯科検診や予防処置を受けることが大切となります。

現状

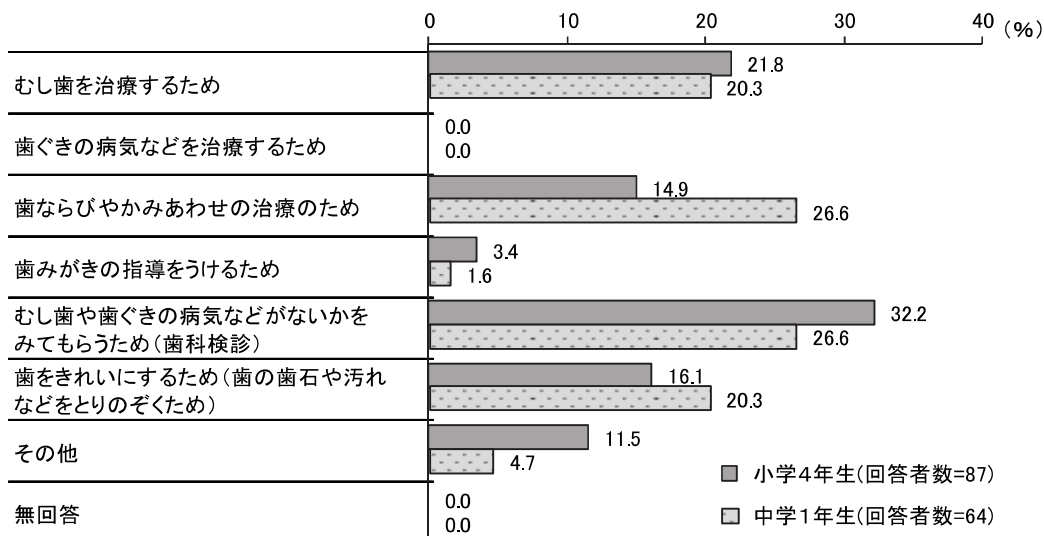
〈小中学生アンケート調査〉

この1年間の歯科の受診状況は、小学4年生69.6%、中学1年生49.6%となっています。歯科（歯医者）に行った理由は、小中学生いずれも「むし歯や歯ぐきの病気がないかをみてもらうため（歯科検診）」が最も多く、また、中学生については「歯ならびやかみあわせの治療のため」もあげられています。

この1年間で歯科（歯医者）に行ったか



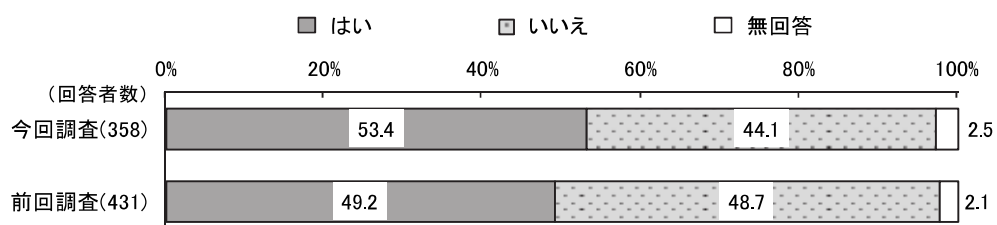
歯科（歯医者）に行った理由



〈町民アンケート調査〉

年に1回以上歯の清掃や歯石を取るなどの予防のため歯科医院を受診しているのは53.4%と前回調査49.2%を上回ります。

年に1回以上歯の清掃や歯石を取るなど予防のための歯科医院等の受診



❖ 課題と方向性

①小学生の歯科（歯医者）に行った理由で最も多いのは歯科検診

定期的な歯科検診による継続的な口腔管理は、歯・口腔の健康状態に大きく寄与します。歯科検診を受診した割合は、小学4年生7割、中学1年生5割となっています。受診した理由として小学4年生では「むし歯や歯ぐきの病気などがないかをみてもらうため（歯科検診）」が最も多くなっています。中学1年生では「歯ならびやかみあわせの治療のため」も同率1位となっていますが、小中学生の歯科検診への高い関心を見ることができます。かかりつけ歯科医での予防定着を図る必要があります。

②環境に応じた歯科口腔保健対策

障害者や認知症といった個人の環境、災害時における歯科健康医療など、環境に応じた歯科口腔保健対策を推進します。

❖ 行政の取組み

- ① かかりつけ歯科医の機能を正しく理解し、かかりつけ歯科医で定期的に歯科検診や予防処置を受けるよう啓発を図ります。
- ② 訪問歯科相談の実施とともに、災害時に歯科口腔保健を保持することの重要性について、日ごろからの普及啓発を図ります。

❖ 主な事業

事業名	事業内容	担当課
広報など	歯と口腔の健康づくりについて「広報ニューしすい」やSNSを通して町民に周知します。	健康福祉課
訪問歯科健康相談	身体の不自由な町民に対し、訪問にて歯科健康相談や口腔ケアの方法を教えます。	健康福祉課